

平成 22 年 5 月 20 日現在

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2007～2010

課題番号：19710209

研究課題名（和文） 経済成長下のインド農村におけるカースト経済の変容と農工間人的資源
配分パターン研究課題名（英文） Changing of the Caste Based Economic and Patterns of Labor Forth
Sift from Rural to Urban under Economic Growth

研究代表者

岡 通太郎（OKA MICHITARO）

明治大学・農学部・講師

研究者番号：研究者番号：70402823

研究代表者の専門分野：複合新領域（インド地域研究）

科研費の分科・細目：地域研究

キーワード：南アジア

1. 研究計画の概要

農村部のカースト制度を基盤とした土着制度、とりわけ貧困層である農業労働者がその雇い主と結ぶ非公式な労働契約に着目し、それが与える農村労働力の都市移動への影響を計量的に分析するとともに、制度の歴史的形成過程および経済成長下における変容・崩壊過程を人類学などの研究蓄積・研究手法を援用しつつ、1カ村研究にとどまらず60カ村以上の広域一次データを収集し、地理学的手法も用いて土着制度の広域制度マップを作製することで、これまでの研究課題であったミクロの事例研究をマクロのインド経済分析に反映させることを目指している。

2. 研究の進捗状況

初年度の課題であった「制度マップ」の作成および「英領グジャラート」の統治形態との関連付け作業は3回の現地調査における60カ村（直径約400km）の個別調査によってほぼ完全に達成した。ここではカーストを軸とする村内の労使慣行（土着制度）が地域によって存在するところとしないところに分かれることやその存在の有無が村内のカースト構成に強く依存すること、一方で作付体系や村外労働市場にはそれほど大きな影響を受けないことが明らかとなった。また、そのカースト構成自身が「英領グジャラート」の統治形態と強く相関していた。2年目の課

題であった「制度マップ」の地域特性格別区分および各区分内の1カ村におけるより詳細な制度変容に関する調査もほぼ完全に達成されている。土着制度の存在しない地域の村では、村内の労働力がきわめて流動的であり、リスクや作付体系に関わらず村外労働市場への移動が活発で、賃金も生産性にほぼ直結したかたちで市場的に調整されていた。しかし土着制度が受ける経済成長からの影響および頑強性については、村外労働市場の形態によって強い影響を受けることが判明し、3年目以降の村外労働市場の形態を綿密に調査する必要が生じた。3年目の課題は主に土着制度が存在する地域の村における労働力の村外移動パターンの解明と、移動についての経済的社会的要因を調査することであった。これもほぼ達成されているが、村外労働市場は場所によってそのリクルート形態が多様であり、本研究の最終課題である労働力移動のパターン化には多少のバイアスがかかることが予想される。

3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している

計画金額の削減はあったが、ほぼ計画通りに進んでいる。その理由は、当初の計画がほぼ仮説通りの結果であったことが最も大きい。また、現地調査における調査票が、研究代表者が過去5年以上にわたり1カ村調査を行った経験から作成されており、聞きづらい

質問や混乱を招く質問項目をうまく回避できたことも大きな要因である。予算削減に関しては、現地調査アシスタントの努力によりそのマイナス影響を最小限に抑えることが出来た。

4. 今後の研究の推進方策

調査の成果をシンポジウムなどで共有するとともに、活字として発信していく必要がある。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計2件)

岡通太郎「インド農村研究の論点 - 実践と研究の隔たり」南アジア研究集会要旨 査読無 2009

岡通太郎「インドの農村研究と地域研究 - 地域とはどの範囲か - 」南アジア研究集会要旨 査読無 2008